

## 神奈川県介護予防事業市町村支援委員会専門部会 開催概要

開催日時	令和6年12月18日(水) 19:00~20:30
開催場所	オンライン開催
出席者	医療分野5名、学識経験者5名、市町村2名、保健福祉事務所4名、計16名
会議の概要	<p><b>1 概要</b></p> <p>&lt;部会長及び副部会長の選任&gt; 委員の改選に伴い、部会長、副部会長が選任された。</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p><b>(1) 県事業の報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村介護予防事業支援のための人材育成事業 専門職、市町村担当者向けに実施した研修について報告した。 ○初級研修(オンライン開催) 令和6年9月1日(日) 受講者97名 「通いの場とフレイル予防」講師：県歯科医師会 鎌田 有一朗氏、他 ○中級研修(オンライン開催) 令和6年10月27日(日) 受講者58名 「ナッジ理論を応用した介護予防」講師：帝京大学教授 福田吉治氏、他 ※初級編・中級編ともに、オンデマンド配信を実施(12月2日~15日)</li> <li>・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場への伴走支援事業 令和6年度の取組状況について、支援の進捗状況、内容を報告した。 保健福祉大学田中和美教授、理学療法士会、作業療法士会のアドバイザーとともに、座間市、大磯町、愛川町、海老名市に対して伴走支援を実施した。支援先の取組状況に応じ、一体的実施の基盤づくりや事業評価の方法、住民から収集したデータのまとめ方および還元方法、ポピュレーションアプローチとしての健康教育、専門職の指導育成等の助言を行った。</li> <li>・地域包括ケア推進事業における専門職員等派遣事業の派遣状況 職種別、市町村別の派遣件数を報告した。 市町村の希望に応じて、地域ケア会議等に学識経験者や専門職等を派遣した。職種で延べ人数が多いのは理学療法士、学識経験者、団体職員等だが、薬剤師や防災士など多彩な専門家のニーズがある。</li> </ul> <p><b>(2) 県内市町村の介護予防事業の状況について</b> 横浜市、相模原市から報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○横浜市 民間企業等と連携したポピュレーションアプローチとして、自然とフレイル予防に取り組める環境づくりを民間企業と連携して実施した事業が紹介された。</li> <li>○相模原市 短期集中予防サービスでリエイブルメントプログラムを提供しており、個人の思いを聞きながら、様々な専門職と一緒に生活課題の解決や健康維持に取り組むプログラムを実施している。</li> </ul> <p><b>(3) 地域リハビリテーション活動支援事業の病院等のヒアリングについて</b> 市が実施する地域リハビリテーション事業への専門職の派遣について、秦野市と伊勢原市内の病院等に訪問し、ヒアリングした結果を報告した。</p>

#### (4) フレイル予防推進会議の取組

フレイル予防推進会議について報告した。

昨年7月、黒岩知事が会長を務める「フレイル予防推進会議」が発足した。自治体、学术界、産業界が参画し、フレイル予防の周知啓発に取り組んでいく。

#### (報告事項に関する主な質疑、意見交換等)

- 横浜市の民間企業等と連携したポピュレーションアプローチについて
  - ・歯科でもオーラルフレイルは注目されている。簡単にチェックできる機器があるので、イベントの際には歯科にもお声がけいただきたい。
- 相模原市のリエイブルメントプログラム導入のノウハウや苦勞について
  - ・令和元年から準備を始め、令和6年10月から事業を開始した。民間事業者に理解を得ること、全地域包括への説明などの苦勞があった。事業に興味があれば、声をかけてもらえれば、できるかぎり説明させていただく。

#### <協議事項>

##### (1) 令和7年度の伴走支援事業について

令和3年度から実施した「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場への伴走支援」は、今年度全ての市町村が事業を開始したので伴走支援を終了する。令和7年度は新たな伴走支援として、「案1. フレイル予防推進のための通いの場への伴走支援」、「案2. 地域リハビリテーション活動支援事業への伴走支援」を検討しており、協議した。

#### (協議事項に関する主な質疑、意見交換等)

- 令和7年度の新しい伴走支援について
  - ・サービスCは課題がある自治体は多いと思うので、案2に力を入れてもらいたい。
  - ・案1のような多職種が関わるフレイル予防をやっていくとよいのでは。
  - ・市町村のフレイルの現状を数字で把握しているなら、その結果で案1、案2を検討してもよいのではないか。
  - ・通いの場での継続した活動ができるような支援を考えるとよい。
  - ・無関心層にも届くような支援を考えて欲しい。
  - ・地域リハビリテーション活動支援事業にもっと地域のリハ職が出られるように、リハビリ三職種ができることや魅力を伝え、案1、案2でも両方こたえられるような専門職団体でいたい。
  - ・伴走支援を通して、市町村と病院・医師会・各士会をつなげてもらうと活動しやすくなる。
- 地域リハビリテーション活動支援事業に関するヒアリングについて
  - ・リハビリと栄養は切り離せない。しかし、栄養士がなかなか関わっていない。栄養状態をみて早めに介入を検討して欲しい。
  - ・歯科衛生士は地域リハにかかわる機会が少ない。食・運動・社会参加・口腔の4本柱が主流になるとよい。イベントはお金がかかるので、メーカーと組んで測定会をすると動機づけになってよい。
  - ・リハ職が地域に出やすいよう、公的な支援も検討を。
  - ・地域リハについては県病院協会に聞いてみても良いのでは。
  - ・地域の取組は大学病院などでは知られていない。ポピュレーションアプローチに医療従事者をどう巻き込むかという観点も必要ではないか。